

Ingrid Fuziko Hemming

イングリット・フジコ・ヘミング ソロ コンサート

Solo Concert

Programme

プログラム

第I部

D. スカルラッティ (1685-1757)

ソナタ ホ長調 K.380 (L.23)

ソナタ ハ長調 K.159 (L.104)

F. ショパン (1810-1849)

ノクターン 作品 9-1 変口短調

バラード 第1番 ト短調

3つの新練習曲より 第1番 ヘ短調

練習曲より 作品 25-1 《牧童》 / 作品 10-3 《別れの曲》 / 作品 10-12 《革命》

～ 休 け い ～

第II部

I. アルベニス (1860-1909)

《スペイン組曲》作品 47より 第5曲 〈アストゥリアス——レイエンダ〉

F. リスト (1811-1886)

《春の宵》S.568 (原曲・シューマン)

3つの演奏会用練習曲 S.144より 第3番 《ため息》

巡礼の年 第1年：スイス S.160より 第4番 《泉のほとりで》

パガニーニによる大練習曲 S.140より 第6番 《主題と変奏》 / 第3番 《ラ・カンパネッラ》

※やむを得ず曲目に変更となる場合が御座います。予めご了承下さい。

※楽章間の拍手はご遠慮願います。

2008.4/30

江戸川区総合文化センター

■主催：ラ・カンパネッラ /  Aoba Piano

イングリット・フジコ・ヘミング ~プロフィール~

Ingrid Fuzjko Hemming

戦前のある時期に、ある関西の資本家の令嬢、大月投網子がドイツへ音楽留学した。その令嬢がスウェーデン貴族の末裔、ジョスタ・G・ヘミングと恋に落ち、そして誕生した運命のピアニストが、フジコ・ヘミングである。

ジョスタは当時彗星の如く現れた新進建築家、画家であり、投網子が特権階級出身の天才令嬢であったことを思えば、今日のフジコの並外れた音楽的成功も、全く当然の事かも知れない。しかしながら、彼女は先の不幸な大戦の犠牲者でもある。その数奇な出自の故に、幼い子供でありながら彼女とその弟ウルフが各国政府機関の重要監視対象下におかれた事はあまり知られていない。戦後ようやくドイツに戻った彼女は、ヨーロッパ社交界と、音楽界に華々しく登場する寸前であったが重病を患い、再びその才能を自己の深い孤独のうちに追いやる。その後、故国スウェーデンを初め、ヨーロッパ各地を放浪し、悲劇の天才ピアニストと語り継がれてきたフジコが1999年のNHKのテレビ放送を切っ掛けにして、日本でも有名になった事実は皆さんご存知の事だろう。

現在パリに在住し、世界中のアーティスト達に愛されている彼女は、収入の大部分を見捨てられた動物達の救済事業などに寄付している。東京では、著名な動物保護運動家でもある友人の相尾女史がフジコの運動をたすけている。また、質素な日常生活は、音楽界のマザー・テレサとも言われるし、彼女の描く絵画は21世紀のネオ・ロマン派の先駆けとして、高い評価を得ているのだ。しかし、もちろん彼女の活動は、動物保護には留まらず、アフガン難民保護や、人権擁護運動、反テロリズム運動にまで拡大し、昨年には遂にスペイン王族までが、彼女の慈善演奏会に参加しているし日本を代表するほどの人々が彼女に称賛を与えている。それでも、少しも生活を変えず、拾われた犬猫のトイレ掃除に汗を流す彼女は、まさに環境危機の21世紀に現れたジャンヌ・ダルクである。

彼女には、国境も芸術のジャンルも無く、宗教や民族の対立からは最も遠く、それでいて、それら全ての要素を無限の彼岸から愛する、本当の愛国者である。

蛇足ではあるが、当音楽会を青葉ピアノと共同で主催する、フジコの唯一の弟、大月ウルフは、かつて日本演劇界の怪優として名声を得て、今日なお、エネルギッシュな舞台俳優として、スウェーデンでも絶賛されている。

追記

本日多くの方々にお越し頂いた事は、フジコの義理の甥にあたる、青葉ピアノ・高橋淳ならびに、大月ウルフとフジコ姉弟の喜びでもあります。また、江戸川区の古刹浄興寺にフジコの母が御供養頂いておりますのも、大変ありがたい事です。

フジコは2009年のベルリンフィル定期演奏会参加をひかえて、リハーサルに懸命です。これからも皆様の応援を宜しくお願い致します。

本日はご来場頂きまして誠に有難う御座いました。



■主催：ラ・カンパネッラ /  Aoba Piano

■お問合せ <http://aoba.bz>